

第1回 八尾市人権教育・啓発プラン策定審議会  
ワーキング部会B 職場・地域 会議録【概要】

1. 開催日時

令和7年10月10日（金）18:00～20:00

2. 開催場所

八尾市役所本館6階 大会議室

3. 出席者

※ 委員8名全員が出席。本審議会の規則第6条第2項の規定に照らし、有効に会議が成立。

（委員） 泉谷委員、植村委員、笠原委員、金委員、草積委員、高木委員、高瀬委員、  
朴委員

（傍聴者）2人

（事務局）人権ふれあい部人権政策課課長補佐 阪田  
人権ふれあい部人権政策課係長 池田  
人権ふれあい部人権政策課副主査 山崎  
株式会社HRCコンサルティング 東野・松村・小西

4. 案件

（1） ワークショップ

1. オリエンテーション
2. グループワーク

（2） その他

5. 会議資料

- ・ パワーポイント資料
- ・ 第1回ワーキング部会B. 職場・地域の進め方
- ・ 第2回ワーキング（全体会） グループワークのまとめ
- ・ 第1回ワーキング部会B. 職場・地域 ワークシート

6. 議事内容

【職場】

<グループ発表>

『職場』のワーキングの方の発表をしたいと思います。

まず、『職場でめざしたい人権教育・啓発とは』の目標です。これを大きく分けて3つです。

「人権が仕事と考えられること」

「働きやすい」

「多様性が尊重される職場」ということになりました。

#### ◆目標の実現を阻んでいると思われる障壁(原因、背景)

「人権が仕事と考えられる」というのは、やっぱりトップの理解がなければ難しいという意見。そして、八尾市の協力も必要だというのがありました。

「働きやすい」となると、収入の壁や人手不足、同調圧力など、長時間労働があります。職場環境の働きやすさが必要という話になりました。

「多様性が尊重される職場」では、職場にはさまざまな人がいるが、多様な人への配慮では、見て見ぬふりをするなど、男性と女性の仕事の役割の違いがあり、考えながらやっていくのは難しい障壁になっているのではないか、という話になりました。

#### ◆取り組むべき課題

「人権が仕事と考えられる」ということに取り組むべき課題は、さまざまな協力が必要。ワークシート「ピンク」の格好で囲まれている「市長」や「ライオンズクラブ」などの協力でやっていかないとけないという話になりました。

「働きやすさ」というのは、世代間の格差とが結構あると思います。デジタルデバイドという問題です。ITを扱えるかどうかというのもあつたりします。男性の育休が取りやすくなるなど、そういうことが「働きやすさ」にもつながっていきます。この辺はあまりできていないです。

「多様性が尊重される職場」では、障がい者の雇用、女性の管理職、合理的配慮、外国人など、多様な人々への理解を深めるような機会が不足しているというのが課題。こういう感じで今回の職場のワーキングは終わりました。

私は営利を追求する企業の人間ですが、そのトップ、要は社長などが理解するにはタダではやりにくく、「助成金」など何かしらのメリットがあればいい。こうすることで人権を仕事として捉えてもらえるようなところがあるので、その辺の助成金を捻出するのに「市長、頑張ってください」ということです。

#### 【地域】

##### <グループ発表>

地域における「人権教育・啓発の目標と課題」ということで話し合いました。大きな目標として「笑顔が絶えない地域を作る」ということが大目標です。

この目標に向かって、小さな目標を3つ作りました。

「地域団体との連携を深める」

「となり近所の井戸端会議などがあるまち」にしたい

「住み続けたいと思うまち」にしたい

「地域の団体との連携を認める」の障壁は、世代交代が出来ていない。過去の団体ごとの合同会議がない。祭りなどをした際に応援がもらえない。団体毎の年齢のギャップがあつて障壁になっている。このような意見が出ました。

取り組むべき課題としましては、各団体のリーダーの意識を変えていく。各団体リーダーの交代。他

団体のことも理解していく、関心を持つという話になりました。

「隣近所の井戸端会議のあるまち」の障壁はいろいろありまして、子育て世代が孤立しているところがあるので、これを理解して援助していくような方向にする。旧村と新しい住宅地の隔たりがあって、目に見えない障害となっている。

それから、既得権というか、以前から住んでいる人の意見が強いところがありまして、既得権の存在というのが障壁になっているということです。

これに関して取り組むべき課題は、誰でも参加することができる居場所づくりによって、住民間の交流を図っていく。若い人の意見なども取り入れて、世代を超えた意見交流をしていく。誰でも立ち寄れる場所や立ち入ることができるような居場所づくりをしていくというのが課題となりました。

そして、「住み続けたいと思うまち」として障壁は、世代間交流が欠けている。地域が抱える問題の相違がある。必要としている人に対して、答えが届いていないということが障壁となっている。

これに取り組むべき課題としましては、世代を超えた協力をしていく、助け合える関係づくりをしていく。例えば、子育てに困っている人がいたら、そのようなところに対しても、家庭支援の充実が課題となります。そして、無関心な人の意識を変えることによって、人権尊重につなげていくという、取り組むべき課題が出ました。

当初は人権というよりも、福祉の問題という形で出てしまったが、アドバイスをもらって、人権に漕ぎつけることができたと思っています。

#### <質問・補足>

##### ◆『人権』が独り歩きしているというのは？

自分にも人権があり、相手にも人権がある、というところで、人権と人権がぶつかった時に、相手に人権侵害だと言われたら、言えなくなってしまいます。炎上したら嫌だ、という形で人権だけが独り歩きしていて、要は、無関心であるという形になって、本来、「困っている人がいるから助けたい」と思った時に、相手側が、「それは人権侵害だからもう聞かないでほしい」と言われてしまったら、聞かなくなってしまいます。相手がどう思っているかわからないが、そういった形で人権が、自分らの意識を飛び越えて、独り歩きしているから無関心になってしまう。それぞれ人に任せる、こういう状態になっていって、地域として、笑顔にできない。タブー視するという感じです。

以上